

第 11 回「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」講習会

平成 19 年度より、東京大学大気海洋研究所・千葉大学環境リモートセンシング研究センター・東北大学大気海洋変動観測研究センターと名古屋大学宇宙地球環境研究所の 4 大学センターの共同プロジェクトとして、文部科学省・特別教育研究経費「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」が開始されました。本プロジェクトでは、地球気候系の診断を行うために、気候・環境研究に関わる表記 4 大学センターが協力してバーチャルラボラトリー (VL) を形成し、各センターの研究資産を活かした研究・教育を行います。VL の一環として、大学院生や若手研究者を対象に連携研究を促進するための講習会をシリーズで実施しています。今年度は、名古屋大学が主幹となり下記の要領で講習会を開催します。

「XRAIN レーダデータの解析」

都市域での降水量の現況把握を目的として、2010 年より国土交通省により日本国内の都市域を中心として X バンド偏波レーダネットワーク XRAIN (eXtended RAdar Information Network : 高性能レーダ雨量計ネットワーク) が設置されています。XRAIN のデータは現在データ統合・解析システム DIAS (Data Integration and Analysis System) より研究目的で誰にでも利用することが可能となっています。

本講習会では、XRAIN データのデータ解析法として、データの読み込み、等仰角水平断面図 (Plan Position Indicator: PPI) の描画、等高度水平断面図 (Constant Altitude PPI : CAPPI) の描画、降水粒子判別プログラムの実行と描画などのプログラムを提供し、これらの実践を行っていただくことで、XRAIN のデータ処理を体験していただくことを目的としています。また、レーダデータの処理方法や応用技術、最新鋭のレーダについての講義も行います。

日時： 平成 30 年 3 月 1 日 (木) 13:00 ~ 3 月 2 日 (金) 13:00

場所： 名古屋大学東山キャンパス内

内容：

1. XRAIN レーダデータの処理 (実習)
(データの読み込み・PPI 表示・CAPPI 表示・降水粒子判別)
2. レーダデータ処理についての講義
(講師：防災科学技術研究所 前坂 剛 主任研究員)
3. 降水粒子判別法とその利用についての講義
(講師：名古屋大学 上田 博 名誉教授)
4. 偏波レーダデータと粒子の直接観測との比較についての講義

(講師：名古屋大学 篠田太郎 准教授)

5. 次世代レーダ：フェーズドアレイ偏波レーダの概要についての講義

(講師：名古屋大学 高橋暢宏 教授)

定員： 最大 40 名 (旅費の援助あり、定員になり次第締切)

参加資格：

1. 簡単な気象データ解析を実施可能な程度の計算機プログラミング経験があること、Linux, Mac OS 等のターミナル端末ウインドウでのコマンド操作を行えることを条件とします。
2. データ処理プログラムは Fortran90、C および Perl で書かれています。中間ファイルは NetCDF 形式です。描画に際しては GrADS や GMT などを用いることとなります。これらのプログラミング言語やデータ形式などについてある程度の知識があることが望ましいと考えます。

問い合わせ先：

地球水循環観測推進室 (田中知子・篠田太郎)

vllecture2017@rain.isee.nagoya-u.ac.jp

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学 宇宙地球環境研究所 附属飛翔体観測推進センター

Tel: 052-789-3497 Fax: 052-788-6206

参加申し込み：E-mail にて上記まで申し込んでください。

申し込み期限：2月9日(金)

参加希望者は、氏名、所属、身分、連絡先(電話番号およびメールアドレス：携帯メールアドレスは不可です)、旅費希望の有無を明記の上、電子メールでお申し込み下さい。申込期限までの日程が短くて申し訳ありません。